

第 21 回 ワークショップ検討タスク 議事録

1. 開催日時 : 2022 年 12 月 26 日 (月) 16 : 00～17 : 20
2. 開催場所 : Web 会議
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 出席委員 : 三浦主査(中部電力), 宇奈手(三菱重工業), 杉村(日立 GE ニュクリア・エンジン),
 西山(東芝エネルギーシステムズ), 堺(九州電力), 鈴木直(中部電力),
 奈良(北海道電力), 西田(東京電力 HD), 中條(中央大学),
 秋吉(原子力安全推進協会), 鈴木哲(中電ソーラーアイ) (計 11 名)
 代理出席者 : なし (計 0 名)
 欠席委員 : 奥平(日立 GE ニュクリア・エンジン), 仲村(東京電力 HD) (計 2 名)
 常時参加者 : なし (計 0 名)
 説明者 : なし (計 0 名)
 オブザーバ : なし (計 0 名)
 事務局 : 高柳, 葛西, 末光, 田邊, 事業推進部 斉藤, 直井 (日本電気協会)
 (計 6 名)
4. 配付資料

資料 No.21(1)-1	品質保証分科会 ワークショップ検討タスク 委員名簿 (案)
資料 No.21(1)-2	品質保証分科会 ワークショップ検討タスク 委員 (出欠)
資料 No.21(2)	第 20 回 ワークショップ検討 タスク 議事録 (案)
資料 No.21(3)	第 20 回 ワークショップ合意事項(概要要旨)r1 【分科会での誤記指摘反映版】
資料 No.21(4)	第 13 回 JEAC4111 ワークショップの日程調整
資料 No.21(5)-1	パンフレット例 (第 57 回電気関係安全セミナー)
資料 No.21(5)-2	2022 年度実務コース講習会の開催案内
資料 No.21(5)-3	第 8 回 NUSC シンポジウムのプログラム&アンケート結果
資料 No.21(6)-資料外	※画面共有のみ
資料 No.21(7)-1	準備スケジュール(第 7 回 NUSC シンポジウムベース)draft0
資料 No.21(7)-2	JEAC4111 適用課題検討タスクでの活動スケジュール案(事務局)
資料 No.21-参考 1	次回のシンポジウムに向けた検討について (案) / 第 8 回 日本 電気協会 原子力規格委員会 シンポジウム結果について
資料 No.21-参考 2	日本原子力学会 2022 年秋の大会 標準委員会企画セッション 議 事報告

5. 議 事

事務局より、本タスクにて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後、議事が進められた。

- (1) 代理者承認、常時参加者、説明者、オブザーバの承認、定足数確認、配付資料の確認等 他
事務局より、出席数は 11 名の出席であり、タスクグループ規約第 9 条（決議）第 1 項で必要な決議条件（委員総数(12 名)の 3 分の 2 以上の出席）を満たしていることが確認された。また新委員として西田委員が加わったとの紹介の後、配布資料の確認があった。

(2) 前回議事録及び概要要旨の確認

事務局より資料 No.21(2)を用いて前回議事録の紹介が行われ、正式議事録とすることについて特にコメントはなく、5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(3) 品質保証分科会への頭出し結果

三浦主査より、資料 No.21(3)を用いて、第 13 回 JEAC4111 ワークショップ開催についての、第 59 回品質保証分科会への頭出し結果について説明があった。

主な意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 原子力安全推進協会の越前様は第 1 部でご講演頂くことになっているが、第 2 部のパネルディスカッションにもご参加頂けることでよいかな？

→その方向で依頼した。ワークショップでは、発表した内容について、ディスカッションを行うものと理解している。

→主査からも、是非、越前様にはパネルディスカッションにご参加頂きたいと考えている。

(4) 第 13 回ワークショップについて（日程候補・開催形態・講師、パネラー・スケジュール）

三浦主査及び日本電気協会 事務局より、資料 No.21(4),(5)-1,2,3 を用いて、第 13 回ワークショップの日程候補・開催形態・講師、パネラー・スケジュールについて説明があった。

ワークショップ開催方法、候補日等について、決議の結果承認された。

主な説明は下記のとおり。

- ・ コロナ禍を踏まえつつも基本的には（パネラーは）現地に集合するということで、日本電気協会の会議室では WEB 配信に適した音声で収録されない可能性があり、日本電気協会としては WEB 配信を原子力規格委員会シンポジウムで実績のある業者をお願いすることになると考えており、会議室はその業者の関係の会議室になる予定。
- ・ 現在、全ての講師は決まっていないが、ご講演頂ける方及びパネルディスカッションにご参加頂ける方の日程は確認させて頂いた。ワークショップ当日は、会議室にご集合頂くことに

なるため、会議室の空き状況も確認している。

主な意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 現状、4/11(火)から 5/26(金)まで、大まかな日程候補案がまとまった。今後、講師になられる方の予定も確認する。

→ 日時候補は絞った方が望ましい。5/16(火),5/19(金),5/23(火),5/25(木)を候補日とする。

- ・ この予定日はパネルディスカッションの収録日ということか？

→ その通り。前回タスクではパネルディスカッションはライブ配信、パネラー側の通信リスクもあるため、現地に集合頂くことが決定された。実務コースの講習会の収録では、予定時間より実際の収録時間の方が長くなっている。そのため、ワークショップの講演は事前に収録して、ライブ配信ではなくオンデマンドで事前収録して配信するのが妥当と考えている。現地集合での時間も短縮でき、業者委託費も節約できる。その様な提案である。即ち、青印部の日時はパネルディスカッションの収録と配信日、講演は講師の都合(講演資料作成状況にもよる)も考えて、事前に電気協会にて収録する。この方法は「安全マネジメントの転換」という WEB セミナーで電気協会としての実績がある。

- ・ 講演をオンデマンド配信、パネルディスカッションはライブ配信とするメリットは、講師の方の拘束時間、待機時間を短縮し、また受講者にとっても、丸1日ライブ配信に拘束されるよりも、半日程度の拘束時間の方が受講し易いということが考えられる。先ほど紹介したセミナーでは、パネルディスカッションをライブ配信の後、後日、視聴できる様にオンデマンド配信した。今回、パネルディスカッションをライブ配信し、後日、オンデマンドでも視聴できる様にするかも含めて、本タスクにて確認したい。

→ 主査として、運営がその方が望ましいということであれば、それに同意したい。

→ セミナーと違い、ワークショップであるため、一連で聞いて頂くことも考えた方が良くと思う。ただし、4つの講演を行うと、10時頃から丸1日間の拘束と長時間になり、事前に聞きたい人も当然いると思うため、開会から講演までは事前収録し、事前配信し、好きな時に視聴頂くのは良いことと思う。当日より1週間前とかの期間を設けて、好きな時に視聴してもらうやり方で実施すれば良いと思う。

- ・ パネルディスカッションを視聴する際は、講演を事前に視聴することが前提となる。

→ そのあたりは、開催案内に明記することになるのではないか。ワークショップに参加される人に配慮すべき点である。

- ・ 講演は事前収録して、オンデマンドで配信するが、当日、一通り、流すということか。オンデマンド配信とは、ある期間、見れる様にするということか。前日までなら、講演は好きな時間に視聴することができるが、当日は決められたスケジュール通り配信されることで、当日は好きな時間には視聴できないのか。

→ オンデマンド配信とライブ配信は各々で行われるので、当日もオンデマンド配信は好きな時間に視聴できると思われるが、事務局にて技術的に成立するか否か、確認し次回結果を

伝える。

- ・ 以上をまとめると、ワークショップとしては、一貫通貫で開催することを案内する旨、配慮するが、講演は事前に収録し（録画映像を）事前に視聴できる様に配信する。パネルディスカッションは、当日、（生）配信するということで進めたい。また、ワークショップの候補日は 5/16(火), 5/19(金), 5/23(火), 5/25(木)としたい。

○ 特に異論がなかったので、ワークショップ開催方法、候補日等についてタスクグループ規約第 9 条（決議）に基づき Web の挙手機能により決議の結果、承認された。

(5) 第 13 回ワークショップについて（開催形態、講師、パネラー、スケジュール）

事務局より、資料 No.21(5)シリーズに基づき、第 13 回ワークショップ開催形態、講師、パネラー、スケジュールについて説明があった。

ワークショップを以前の決議結果である半日実施から 1 日で実施すること、今回の検討内容で開催することについて決議の結果承認された。

主な説明は下記のとおり。

- ・ 原子力規格委員会のシンポジウムが 11 月 15 日に開催されたが、これと品質保証シンポジウムというのは似ている構成であると思っており、シンポジウムのアンケート結果の一次案では、全体的に Web の方が良いとか、パネルディスカッションの時間が短めであったとか、後は論点を絞ってほしいというような意見があった。
- ・ 今までのワークショップは対面で Web は初になるので、シンポジウムの意見も参考になるところはあと思う。オンデマンド方式の場合は、時間の区切りの呼び鈴の様なものはなく、伝えたいことが十分伝わると思われる。

主な意見・コメントは下記のとおり。

- ・ ワークショップのスケジュールを決めた方が良い。講演を現在、4 つ考えているが、各々の講演時間、休憩時間をどうするか、また開催日候補も 4 日あるが、講演も、事業者、メーカーがいつまでに講演者を決めるか等、決める必要がある。
- ・ 1 月中には講師の決定が必要。年明け早々、関係者で打合せを行いたい。NRA の都合も、参加の可否も含め、既に内容は連絡済であるが、事務局経由で確認する。
- ・ 講演時間については、講師は所定の時間内で発表することになるが、講演 3 のテーマであると 45 分では少し足りず、1 時間程度必要と思われる。
- ・ 講演 1 については与えられた時間に応じで行うが、50 分程度でよいと考えている。
- ・ 分科会長の挨拶は 10 分程度必要と思われる。
- ・ 講演 2 は合わせて 90 分、各 45 分程度必要。

- ・ オンラインであるため目安として 50 分行って 10 分休む, 60 分行って 10 分休む。
- ・ 原子力規格委員会シンポジウムのパネルディスカッションは 115 分程度だった。これでは短いという意見もあったが, パネルディスカッションは 2 時間半程度で十分であるか。2 時間なら 15:00 から 17:00 までのイメージ。一気通貫で見た場合, 10:00 から開始して講演は午前 2 回, 午後 2 回, パネルディスカッションの 1 日間のプログラムが考えられる。
- ・ パネルディスカッションは 2 時間半程度が丁度良いと考えている。
- ・ 前回までは, ワークショップは半日実施とする決議であったが, 講演 4 点, パネルディスカッション実施ということでは, 半日では時間配分が厳しい。

→ 10:00 開始で 17:30 終了という様な, 1 日スケジュールで良いのではないかと。

- ・ 以上をまとめると, 以下の通り。

1 月中に講師を決定するために, 講師未決定の事業者, メーカーの各々関係者で打合せを行う。

NRA 高田様に日程候補日を事務局より連絡し, 参加の検討状況を確認する。

当日のスケジュール: 午前 10 時から午後 5 時 40 分ぐらいの一日間で実施

挨拶～講演: 事前収録, オンデマンド配信, 事前視聴可

- ・ これまではワークショップを半日で実施する事で検討を進めてきたが, 1 日間になることについて決議を取りたいと考える。

○ 特に異論がなかったため, ワークショップを 1 日間で実施することについて, タスクグループ規約第 9 条 (決議) に基づき, 挙手にて決議の結果, 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(6) その他

- a) 今回のワークショップは, 中立的な立場の先生をパネルディスカッションに招待する必要があるか, 事務局から確認があった。

主な説明・意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 中立的な立場の先生について確認したい。例えば, 先ほど紹介した安全セミナーでは, 慶大教授の中西先生がファシリテータを行った。早大の小松原先生に師事された先生。安全セミナーは好評で, セミナー聴講後に, 自社でも講演を依頼したい旨の問合せが何件もあった。
- ・ 中立の立場で外部の先生がご参加頂くのはありがたいが, 講演されずにパネルディスカッションのみご参加頂くというのは, 失礼にあたらないか。
- ・ パネルディスカッションのみご参加頂くことでも失礼には当たらない。是非, ご参加頂く方が良いのではないかと。
- ・ JEAC4111 課題検討タスクでの論点整備によって, 5 月迄には課題に対してある程度の検討が進むかもしれないが, 時間的に結果が伴わない可能性もある。その様な状況であるため, 中立的な立場の先生にご参加頂くのはよろしいのではないかと。

b)日程調整等

主な説明・意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 事務局より資料 No.21(7)シリーズを用いて、今後のスケジュール案について説明があり、4/11 開催を考えると、1 月早々には資料等検討する必要がある。5 月開催だとしても 1 ヶ月スライドして 2 月早々には資料等の検討が必要である。
- ・ パネルディスカッションのパネラーには、講演を事前に視聴頂き、パネルディスカッションのパネラー間での調整等の打合せは、当日のパネルディスカッションの前に実施するといふことが良いのではないか。
- ・ 資料 No.21-参考 1, 参考 2 はパネラーの方に参考となるかも知れない資料であるが、本日は紹介等を行う時間がないため必要に応じて各自で確認して頂ければよい。
- ・ 次回のタスク開催日は講演者の選定状況等踏まえて決定する。
- ・ 鈴木（直）委員より、品質保証検討会の委員は継続するが、主査を退任することになったことを踏まえて、本タスクを退任する旨の説明があった。

以上